

CASBEE京都-新築(2011年版)
(仮称)京都市山科区御陵大津畑町 計画

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音										
1 室内騒音レベル										
2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
3 外皮性能										
4 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率 ●自然 A(全国版準用) 昼光率:1.63%(1.5%以上2.0%未満)(Dタイプ住戸)										
2 方位別開口 ●自然 B(推奨内容)										
3 昼光利用設備 ●自然 B(推奨内容)										
3.2 グレア対策										
2 昼光制御 ●自然 B(推奨内容)										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質 建築基準法を満たし、かつ規制対象外建築材料(F☆☆☆☆)をほぼ全面的に採用。										
4.2 換気										
1 換気量 ●自然 A(全国版準用) 居室面積1/6以上の開閉可能な窓を確保。(Dタイプ住戸)										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画 ●大切 D(独自基準) バリアフリー条例の整備基準(努力)を一部満足。										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 ●とも C(独自加点) 6階住居居室部分天井高:2.5m										
2 リフレッシュスペース ●とも D(独自基準) 照明及び内装計画を事前に検討。(共用部分)										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
1 耐震性										
2 免震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数 ●大切 A(全国版準用) 品確法に於いて、等級3を満足。										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
配管の2種類以上にB以上を使用し、Eは不使										

2.4 信頼性	1	空調・換気設備			3.4	0.19	[Cross-hatched]	-	-
	2	給排水・衛生設備			3.0	0.20			
	3	電気設備			4.0	0.20			
	4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
	5	通信・情報設備			3.0	0.20			
3 対応性・更新性									
3.1 空間のゆとり									
1 階高のゆとり									
2 空間の形状・自由さ					●大切	A(全国版準用)			
3.2 荷重のゆとり									
3.3 設備の更新性									
1 空調配管の更新性					●大切	A(全国版準用)			
2 給排水管の更新性					●大切	A(全国版準用)			
3 電気配線の更新性					●大切	A(全国版準用)			
4 通信配線の更新性					●大切	A(全国版準用)			
5 設備機器の更新性					●大切	A(全国版準用)			
6 バックアップスペース									
Q3 室外環境(敷地内)									
1 生物環境の保全と創出					●とも	A'(全国版準用)			
2 まちなみ・景観への配慮					○	C(独自加点) D(独自基準)			
3 地域性・アメニティへの配慮									
3.1 地域性への配慮、快適性の向上					●とも、 自然	A'(全国版準用)			
3.2 敷地内温熱環境の向上					●とも	A(全国版準用)			
LR 建築物の環境負荷低減性									
LR1 エネルギー									
1 建物の熱負荷抑制									
2 自然エネルギー利用									
2.1 自然エネルギーの直接利用					●自然	A(全国版準用)	太陽光パネル設置、		
2.2 自然エネルギーの変換利用					●自然	A(全国版準用)	自然エネルギー利用量: 86.2kJ/年㎡		
3 設備システムの高効率化									
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)							#VALUE!		
集合住宅の評価							3.0		
4 効率的運用									
4.1 モニタリング									
4.2 運用管理体制									
LR2 資源・マテリアル									
1 水資源保護									
1.1 節水									
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									
1 雨水利用システム導入の有無					●自然	A(全国版準用)			
2 雑排水等利用システム導入の有無									
2 非再生性資源の使用量削減									
2.1 材料使用量の削減					●大切	B(推奨内容) D(独自基準)			
2.2 既存建築躯体等の継続使用									
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					●大切	B(推奨内容) D(独自基準)			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用					●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	持続可能な森林から算出された木材の使用比率 ≥50%		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					●大切	A(全国版準用)	地域産木材使用。		
3 汚染物質含有材料の使用回避									
3.1 有害物質を含まない材料の使用									
3.2 フロン・ハロンの回避									
1 消火剤									
2 発泡剤(断熱材等)									
3 冷媒									
LR3 敷地外環境									
1 地球温暖化への配慮									
2 地域環境への配慮									
2.1 大気汚染防止									
2.2 温熱環境悪化の改善					●とも	A(全国版準用)			
2.3 地域インフラへの負荷抑制									
1 雨水排水負荷低減									
2 汚水処理負荷抑制									
3 交通負荷抑制									
4 廃棄物処理負荷抑制									
3 周辺環境への配慮									
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									
1 騒音									
2 振動									
3 悪臭									
3.2 風害、日照阻害の抑制									
1 風害の抑制									
2 砂塵の抑制									
3 日照阻害の抑制									
3.3 光害の抑制									
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策									
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					●大切	B(推奨内容)	「光害対策が付ライン」、「広告物照明の扱い」に 於けるチェック項目の内過半を満足。		

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる